

本文篇

凡 例

- 一 この本文篇は「水無瀬三吟百韻」と「湯山三吟百韻」の本文を懷紙毎に区切つて、各句頭部に整理番号を附し作成したものである。「水無瀬三吟」は長享二年一月二十二日、宗祇・肖柏・宗長の三名で鳥羽院の離宮址たる攝津水影堂に詣でた時、法樂の為に賦した百韻である。また「湯山三吟」は同じくこの三名が攝津有馬温泉にて、延徳三年十月二十日に一座して詠じたものである。
- 二 本文篇作成に際しては、福井久蔵編「水無瀬三吟評釈」(昭23年 喜久屋書店刊)の本文を底本とした。この書は桂湖村蔵本・山岸徳平蔵本・名古屋市立図書館蔵本・続群書類従所収本(松本)等を校合して校定せられた教科用本文である。
- 三 各懷紙(初の表八句・初の裏一四句、二の表一四句・二の裏一四句、三の表一四句・三の裏一四句、名残の表一四句・名残の裏八句)毎に本文を纏め、五・七・五、七・七と分ち書きにして視覚の面で便ならしめた。

湯山三吟百韻

〔賦何人連歌〕 延徳三年十月二十日

- | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|---------|---------|---------|--------|---------|--------|--------|--------|---------|---------|--------|--------|---------|--------|
| 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| すめは山かつ | 何をかは | 世にこそ道は | ふる里も | 身をなさは | うきはた | 初の懐紙の裏 | かたらふも | 思ひもなれぬ | 露さむし | さよ更けけりな | 松虫に | 岩もとす | うす雪に | 初の懐紙の表 |
| 人もたつぬな | 苔のたもとに | あらまほしけれ | 残らすきゆる | はやの | 鳥をうらやむ | 裏一四句 | はかなの友や | 野への行すゑ | 月も光や | 袖の秋風 | さはれ初めし | 冬やなほみん | 木葉色こぎ | 表八句 |
| | 恨みまし | | 雪をみて | 朝ゆふの春 | 花なれや | | 旅の空 | | かはるらん | | 宿いて | | 山路かな | |
| 長 | 柏 | 祇 | 長 | 柏 | 祇 | 長 | 柏 | 祇 | 長 | 柏 | 宗祇 | 宗長 | 肖柏 | |
| 29 | 28 | 27 | 26 | 25 | 24 | 23 | 22 | 21 | 20 | 19 | 18 | 17 | 16 | 15 |
| 藤衣 | 涙をたにも | 枕さへ | もの思ふ玉や | 螢飛ふ | いつみを聞けは | わきてその | 入りにし山よ | すみはなれ | さそふつてまつ | たかならぬ | 思の露を | 秋のよも | あはれは月に | 名も知らぬ |
| なこり多くも | なくさめにせん | しるとはしるな | ねんかたもなき | 空によふかく | た秋のこゑ | 色やは見ゆる | 何かさひしき | 今はほとさへ | 侘人そうき | あたのたのみを | かけし悔しさ | かたる枕に | なほそそひ行く | 草木のもとに |
| 今日ぬきて | | 我心 | | 端居して | | 松の風 | | 雲みちに | 命にて | | | あけやせん | 跡しめて | |
| 長 | 柏 | 祇 | 長 | 柏 | 祇 | 長 | 柏 | 祇 | 長 | 柏 | 祇 | 長 | 柏 | 祇 |

